

卒業生への祝辞

カンタベリー日本語補習校、運営理事長の松崎でございます。

本日、ご卒業される児童・生徒の皆さんと保護者の皆様に対し、心よりお祝いを申し上げます。「おめでと〜ございます。」

卒業生の皆さんは、きつと今までに、「補習校に行きたくない」と思ったり「勉強が難しくて大変だ」と感じたり、「なぜ補習校に行かなければならないのか」と悩んだりしたことがあったと思います。実際、いろいろな理由で補習校をやめる子がいます。小学一年生るときは三〇人以上いるのに、六生生ではその半分くらいになり、中学ではさらに減ります。そのくらい補習校を続けていくことは難しいのです。皆さんは、そういう幾つもの試練に耐えて、ついに今日、卒業の日を迎えられました。そのことを誇りに思ってください。お父さんやお母さんも、そんな皆さんのことを誇らしく思っつらつしやることでしよう。

それでは、どうして補習校を続けることができたのでしょうか。もちろん一番の理由は、皆さん一人一人が頑張ったからです。でも、それだけじゃなくて「仲の良い友達がいたから」とか、「お母さんが厳しかったから」とか、「先生が励ましてくれたから」ということが思い浮かぶのではないでしょうか。実際、卒業証書を受け取られた皆さんから、親御さんや先生、友達への感謝の言葉がたくさん聞きました。自身を誇るとともに、自分だけの力じゃないことに感謝できる皆さんを、立派だと思えます。そのように立派に成長された皆さんを今日、

補習校から送り出せることを、私も誇らしく思います。

それから、お父さん、お母さん、先生、友達など身近な一人たちの他にも、補習校が今日あるためには、日本から派遣していただいた堀井校長先生はじめ文部科学省や外務省からの援助と、日本人会や保護者会のご支援が欠かせません。そのことへの感謝も心のどこかに留めていただきたいと思います。

これから卒業した後も、どうか日本の勉強を続けていただきたいと思います。きつと役に立つ時があります。そして立派な大人になってください。皆さんのご成長と今後のご活躍を楽しみにしております。ご卒業、本当におめでとう。

最後に、このような素晴らしい卒業式の実現にご尽力くださった先生方と、ご協力いただきました全ての皆様にお礼を申し上げて祝辞といたします。ありがとうございました。

平成二十四年三月十七日

カンタベリー日本語補習校

運営理事長 松崎一広